



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年1月21日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなで作る尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

知っていますか？給食週間が始まります！

今週一週間は学校給食週間です。学校給食週間とは、食べ物や給食のために働いている方々に感謝の気持ちを込めて、いろいろなことに取り組む一週間です。

なぜ学校給食週間が行われるようになったのでしょうか？それは、給食の歴史にあります。学校給食が始まったのは、今から約120年前の、明治22年です。

山形県の忠愛小学校というところで、お弁当を持ってこれない子どもたちに、「おにぎりとおほんの少しのおかず」を出したのが、始まりだと言われています。その後、日本中に学校給食が広まってきました。しかし、今から83年前、日本で第二次世界大戦が始まり、その戦争のため、食べ物は少なくなり、学校給食は中止されてしまいました。子どもたちは、みんなおなかをすかせていました。なにも食べることができず、死んでしまう子もいました。

戦争が終わって、子どもたちを救おうと、アメリカから送ってもらった食べ物を使って再び学校給食が始まりました。それを記念して、食べ物や給食に関わる感謝の気持ちをいつまでも忘れないようにと「学校給食週間」が行われるようになったのです。

給食ができるまでには、食べ物を作ってくれる人、食べ物を運んでくれる人、食べ物を売ってくれる人、食べ物を調理してくれる調理士さん、配膳員さんなど、たくさんの方が関わってくださっています。今、新型コロナウイルス感染症が拡大している中でも、多くの方が私たちのために、給食の食材を作り、届けてくださっています。そのおかげで、私たちは毎日、元気に過ごすことができます。

人は、食べ物を食べないと生きていくことができません。そして、その食べ物は、全て生き物です。私たちは、食べ物の命をもらって生きています。そのことを忘れずに、毎日の給食に感謝して食べましょう。この一週間を通して、一人一人、給食についてしっかりと考えてみましょう。

写真は、青森県三沢市学校給食センターによるバイキング形式の給食が、三沢市立第二中学校で実施された様子です。普段は、栄養バランスのとれたメニューが提供される学校給食です。一方、主食・主菜・副菜・デザート・飲み物の選択数に制限があるものの、バイキング給食では、複数あるメニューから自分が好きなメニューを選択します。また、その分量も自らが食べられる分を選択します。食事の楽しさ、自分の健康を守る能力、テーブルマナー、偏食の改善や地元食材への興味が実施の狙いで、市内では平成24年度から実施されているそうです。

学校給食の移り変わり 写真提供元「独立行政法人日本スポーツ振興センター」